

2015年6月21日礼拝メッセージ

テーマ：父には父がいる

聖書箇所：マタイ11：25－39

序論：

先週テレビのショーでダメおやじとイイおやじについてやっていました。家事を手伝ってもイイお父さんとは限らない。かっこよくてもいいお父さんとはかぎらない。仕事がばりばりできていいお父さんとはかぎらない。いろいろとありました。その中で一番衝撃的だったのは、子育て中の奥さんの話／愚痴を聞いてあげることが大切だ、という意見でした。愚痴を聞くことがいい悪いは別にして、納得がいった事はお父さんはまず奥さんを大事にしなければならないということでありました。妻を大事にするということがまず最初だな、ということわかります。今日は父の日だというのに、子どものことばかりか、妻との関係の事にまで教会は口を出すか、ということでもうしわけないことではありますが、はっきり言います。妻を大事にせよ！大体みなさん、私達、たいしたことない男の所に嫁に来てくれているということだけでも大感謝ですよ。ハンサムな奴はいないし、金持ちもない、頭がいいわけでもなく、口がうまいわけでもない。そんなあなたをよしとして来てくれたんですからね。

でも叱咤激励はこのくらいにしておきましょう。

I. 特権がある

お父様がた、あなたには特権があります。父の称号を得ているところです。だれでも自分力で父になったものはいません。子がいるからこそ父になれるのです。そして、子どもは神が与えてくださるのです。そしてその子たちからみなさんは、多少の差はあれ、父として認められているのです。

この箇所ではイエス・キリストが父なる神に対して「お父さん」と言って祈っています。この言葉をみるとイエスがどんなに父を尊敬し、感謝しているかがわかります。もちろんこの父は天地の造り主ですから、それにふさわしい能力と人格を兼ね備え、この全宇宙を支配しておられます。世界中のひとたちが神様！と叫ぶ、そんなお方です。決して人間が自分の都合で作った神々ではありません。

(1985年日航機墜落事故)

この造り主としての神と同じ父親としての肩書が皆さんには与えられているのです。なんという特権でしょうか。全知全能の神と同じ称号ですよ。

II. 悩みにぶつかる

こんな素晴らしい称号をもらって、父親ってなんていいのだろう、と思うのもつかの間、お父さんは悩みにぶつかります。仕事の悩み、近所づきあいの悩み、子育ての悩み、自分の人生を振り返っての悩み、様々です。

「3丁目の夕日」にはそんな父親が出てきます。雑貨屋の茶川、彼はその典型です。自分の失敗や人にだまされて失敗します。特に芥川賞候補に挙がった時の失敗はいろいろなことを私たちに教えてくれます。(ストーリー挿入) 原因はどこにあるのでしょうか。人の

性、つまり罪です。彼のようなこと、私たちもしてしまうと思いませんか。虚栄心、ごまかし、劣等感、自分の罪が原因のときもあれば、人の罪が原因の時もあります。この地上で報いをうけずに免れても死後に主によって明らかにされます。ですから人は死を恐れるのです。

Ⅲ. 福音とは

でも心配しないでください。イエスはそんな私たちのためにこの地上に来られました。そして、この言葉をかけられています。(26節) まずは罪を解決し、ついで私と一緒にいかないか、という招きです。なぜ信じられるのでしょうか。主は私たちの苦しみを解決するだけではなく、その根本原因、人の罪を解決されたのです。どうやって? 身代わりに死ぬことによってです。あなたの罪は治りますか。治せますか。治せたとしても今までの罪はどうするのですか。主イエスがあなたのために身代わりとなり、出頭し、何も弁解せずに死んで下さったのでした。なんという恵み、なんという愛でしょうか。

結論: では私はどうすれば、いいのでしょうか。重い、苦しい、人間のくびきを外して、主イエスのくびきを負えばいいのです。いっしょに主がくびきを負ってくれているそんなくびきです。つまり、主イエスの死と復活を自分の為であったと信じてください。そうすれば魂に安らぎが来ます。不思議なこと、不思議な恵みです。

